

## “新年のご挨拶”

会長・理事 庄 司 勉

洋上・陸上または海外でご活躍の会員並びに日頃ご支援を戴いております関係先の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

暑い暑いと言っていた昨年の夏は記録的な猛暑となり、いつになったら秋が来るのかと思っていましたが、その秋はアツと言う間に過ぎ去り、冬の訪れとなっていました。昨年の新語・流行語大賞の30語の1つに「2季」が選ばれたのもむべなるかなとの思いで、地球温暖化？が確実に進んでいるのかなと感じていますが、そういう中でも昨年1年の振り返りをする意味で忘年会やChristmas Partyをされた方も多かったことと思います。

ここで昨年1年を振り返り、新たな年を如何に過ごして行くべきかのヒントを探して見たいと思います。

2025年はどんな年であったか？一言で言えば、米国のトランプ大統領1人に振り回された1年では無かったかと思います。1月20日に2期目の第47代大統領に就任した後、異例の早さで大統領令に署名（100日間で約180）し、様々な方針を打ち出しました。その中で一番世界に衝撃と影響を与えたのは4月2日に発表した相互関税ではなかったかと思います。多くの国に、しかも高い率で関税を掛けるとしました。その後紆余曲折があり、各国との税率の交渉が行われ、日本の場合は時の担当大臣が何回も訪米して7月23日に至り、漸く自動車も含めた関税率を15%（25%から）に抑える事が出来ました。

この間、世界経済はトランプ大統領の政

策に翻弄され、株式市場は米国の猫の目関税政策により、乱高下を繰り返し、日経も毎日¥1,000以上も上がったりと下がったりして動揺しました。

この高関税政策により我が海運業界も影響を受け、海上荷動き量の減少、特に米国への自動車輸送が大きく減少するのではないのかと懸念されましたが、官民を挙げた努力により今の所大きな落ち込みも無い状況となっている様です。

また、世界各地で発生している紛争に際しても、トランプ大統領は色々と言口を出して停戦を主導するのは良いとしても、中々成果に結びつかないのが現実です。10月8日ガザでの和平案（第一段階）が合意したと発表されましたが、その後もイスラエルの攻撃が継続されているとの報道もあり、完全に停戦したと言えない状況の様で、これにより邦船社を始めとした多くの船会社は紅海を避け、未だ喜望峰回りの航海を継続しています。

さらに、ウクライナ紛争は各国が戦争終結に向けて色々動いているようですが、解決の糸口が未だに見えません。筆者には黒海の航行安全がどの様になっているのか全く分かりませんが、我々の業界は平和の海あつての産業ですので、ガザ紛争におけるフーシ派の商船への攻撃は断じて容認する事は出来ません。加えてトランプ大統領の決定で一番驚いたのは、6月22日にイランの核施設を空爆した事でした。この攻撃により中東が一気に緊張し、第三次世界



大戦に発展するのではないかと危惧しましたが、面子を大事にするイランが良く反撃を思い止まったと安堵した事を今もって覚えています。

一方我が国に目を転じますと、一昨年10月の衆院選、昨年7月の都議選と参院選で政権与党が連戦連敗で過半数割れとなり、石破政権は1年で終焉、代わって10月に高市内閣が誕生しました。女性初の総理大臣との事で、所謂「ガラスの天井」が打ち破られた訳ですから、個人的にはもう少しこの話題が沸騰しても良いのではと思わないでもありませんでしたが、それだけ日本が多様性を素直に受け入れられる国になったと理解する事とします。

経済の方では、日経の平均が4万円、5万円と立て続けに史上最高値を更新し、実体経済に対応していない、所謂バブルでの株高とも言われていますが、これにより日本経済が活性化する事を祈るばかりです。政府としても高市政権となり「責任ある積極財政」と銘打って過去最大となる約18兆円の補正予算を組み、物価高対策、年収の壁引き上げ等の実施を行い、強い日本経済を立て直すと宣言しています。是非、高市内閣の施策が上手く行き、失われた30年、所謂デフレ経済から脱却し、日本経済が成長軌道に乗る事を願わざるを得ません。

海運業界も世界的な地政学リスクに晒されていますが、数年前の海運界の類を見ない好景気により各社の財務体質が劇的に改善し、それ以降も海上荷動き自体に大きな崩れも無い事と相俟ってある程度の業績を確保している様です。筆者としては、何とか日本経済が上昇基調に乗り、我が海運界も継続して、業績が少しでも良くなるように願うばかりです。

最後に我々に一番身近な問題として脱炭素化の問題があります。昨年は海運界の脱炭素化対策に関して Epoch Making な年と

なる予定でした。しかしながら10月に開催された MEPC 臨時会合にて新たな GHG 排出削減対策（中期対策）は採択されず、1年延期となってしまいました。この様になった事態にも米国トランプ大統領が囃んでおり、各国の利害がぶつかり合って、国際交渉が一筋縄では解決しないと言う現実を見せつけられました。各国が「地球」と言う1つの船に乗っているとの視点を持たなければ地球温暖化防止、脱炭素化の目標は達成する事は出来ないと思います。

世界はこの様な状況となっていますが、その一つの原因として、行き過ぎたグローバルズムがあるのではないかと考えがあります。これにより貧富の差が拡大し、冷戦を勝ち抜いて勝者になったと思った民主主義社会が分断の世界を現出させ、各国は自国主義に政策を変更し、結果として世界の人口の71%が専制的な国家に住んでいるとの統計もあり、民主主義国家にもトランプ大統領の様な専制的な指導者が現出するなど、これから世界がどの様になって行くのか混沌として、益々不確実性が増す世の中となって来ています。その様な世界でどの様に生きて行けば良いのか、非常に難しい問題だと思います。但し、言えるのであれば、世の中の趨勢に流されず、確固たる自分の信念を持って、世界の出来事を見る事だと思います。その為には情報過多の時代ですが、アンテナを高く張って何が自分に取って有益な情報なのかの取捨選別を行う事だと思います。

今年もまた思いもよらない事象が発生すると思いますが、世界の人々が冷静に対処し、お互いの立場を理解する努力をもって、みんなが平和に暮らして行ける世界にしたいものです。

今年一年会員の皆さんと一緒に当協会を盛り上げて行きたいと思っておりますので、ご協力宜しくお願い申し上げます。